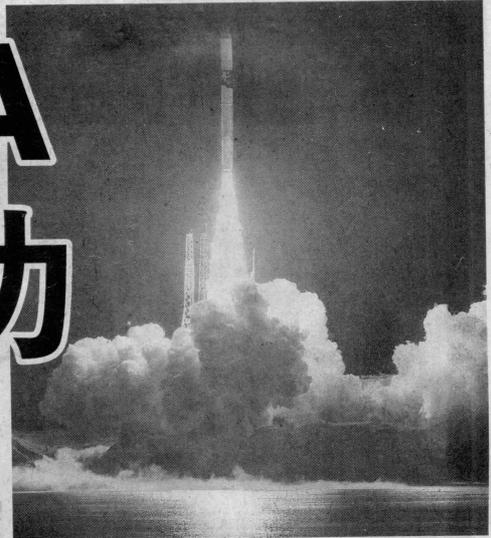


# 最後のH2A 打ち上げ成功

## 衛星「いぶきGW」搭載



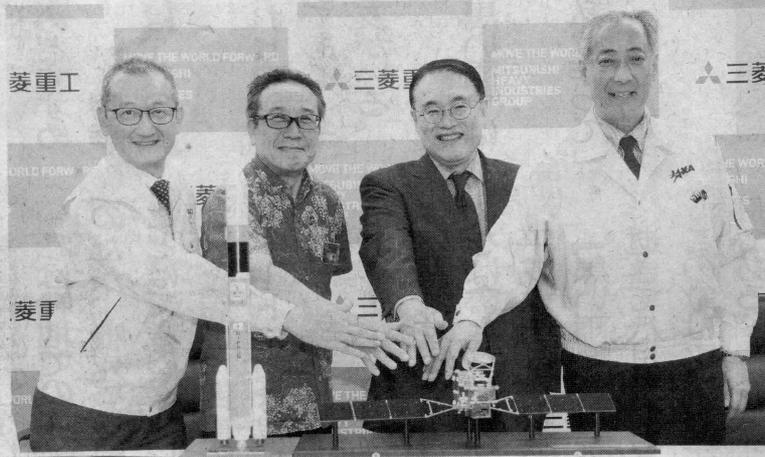
温室効果ガス・水循環観測技術衛星「いぶきGW」を搭載し、打ち上げられるH2Aロケット50号機＝29日未明、鹿児島県・種子島宇宙センター

### 50号機 有終の美

三菱重工業は29日午前1時33分、温室効果ガス・水循環観測技術衛星「いぶきGW」を搭載したH2Aロケット50号機を、鹿児島県・種子島宇宙センターから打ち上げた。衛星は約16分後に予定の軌道に投入され、打ち上げは成功した。2001年の初打ち上げ以来、24年にわたって日本の宇宙開発を支えたH2Aは、50機中49機という高い成功率を残して退役し、後継のH3に完全移行する。

記者会見した三菱重工の五十嵐 宇宙事業部長は「これまでの信頼をH3に引き継いで打ち上げを進めていきた

打ち上げ後の記者会見を終え、笑顔で記念撮影に応じる三菱重工業の五十嵐 宇宙事業部長（左端）とJAXAの山川宏理事長（右端）ら＝29日未明、鹿児島県・種子島宇宙センター



い」と述べた。旧宇宙開発事業団（現宇宙航空研究開発機構）JAXAが開発したH2Aは、基幹ロケットとして政府などの衛星打ち上げを担った。07年からは三菱重工に製造と打ち上げが移管され、衛星打ち上げ市場への参入も果たした。失敗は03年の6号機のみと高い信頼性を実現したが、米スペースX社などの登場により衛星打ち上げ市場の価格競争が激化する中、1機100億円とも言われる費用が課題に。民生部品の大幅な活用などで低コスト化を実現するH3への移行が決まった。